



ヨコハマ“救”水プロジェクト

この大変革の新時代に生きる大人も、キッズも、AIも、環境教育も巻き込んだ、環境に(お財布にも)優しい素材のマイボトルを片手に、三方良し 2.0なスマートシティ横浜のオアシス化計画

事業目的

- 世界的に大きな問題になっている海洋プラスチックの問題に対して、一番、身近なペットボトルを対象に、欧州で広まりつつある『Refill』の仕組みを取り込みながら、減プラスチック社会を実現に向けた取り組みを行うプロジェクト。
- 給水を各地（公共施設・コンビニエンスストア・コーヒーチェーンなど）の施設と提携することで、顧客の利便性を図る。給水活動を通じて、熱中症対策だけでなく、地域のコミュニケーションの活性『街のオアシス』化にも貢献することが出来る。
※最終形態は水道水 or 給水機の設置であるが、初期段階は大型ペットボトル / タンクを小分けにして供給する仕組みを考えている。
- 横浜市内の小学生、部活動で水分補給を必要とする中高生向けに、マイボトル用給水器（後者備え付け蛇口とは別に）と共に、マイボトルを無料配布して、モニター調査。モニターの節々で、海洋プラ汚染について啓発掲示物などで、なぜマイボトルが必要なのか知ってもらう（親の教育目的でもある）
- 生活に不可欠な『水』を通じて地球環境の課題を日常生活に落とし込んで対策できると共に、水と共生する街として“港町”ヨコハマをアピールすることが出来る。更に『オアシスポイント』制度を導入し、利用者のペットボトルを持ち歩かないようなインセンティブを促す。

事業計画

- バイオマスチップを原料に製造したマイボトル及び（初期段階では）既存カップが入るような手持ちホルダーも併用する予定。嵌る種類としては、①通常の紙コップ、②ステンレス等で作成したタイプ、③生分解性等で作成した折り畳み式タイプ、のいずれにも対応できる構造を想定。
- 原料となるバイオマスチップについては、複数の企業と交渉を行いますが、理想は、横浜市の水源となっている山梨県道志村の間伐材を原料としたウッドプラスチックでの使用を目指します。
- マイボトル及び手持ちホルダーについては弊社及び提携企業にて製造致します。尚、デザインについては横浜をイメージできるようなデザインを考えており、販売については広告収入を軸としたビジネスモデルを考えております（本体に協賛企業ロゴを入れ、ヨコハマ SDGs に賛同していることをアピールできるような仕組みを想定している。また、普及すれば量販店での取り扱いも検討します）。
- プラスチック環境汚染の問題の根幹は「Reduce」（使用を減らすこと）にあります。代替プラ素材に変更するだけでなく、ユーザーのモニターや更新情報配信、新商品発売時に無料交換などの施策を通じて、使い捨てプラありきの生活を抜本的に考え直し、本マイボトルの使用が単なるワンウェイのゴミにならない循環型社会の構築を生み出すきっかけとなる機会を与えます。

問合せ先

株式会社 ニックス

代表取締役社長 青木 一英

〒220-6108 横浜市西区みなとみらい 2-3-3 クイーンズタワー B 8F

TEL : 045-221-1350（担当：中山 徹）

FAX : 045-221-1355 E-mail : i-nakayama@nix.co.jp

（サポーター）

TEL : 080-2068-4956（担当：Project Plestic 石井 祐介）

E-mail : usk141@gmail.com